朝鮮幼兒保育苦心談

京口さだ子

私は今朝鮮の京城幼稚園に勤務いたして居ります。京城幼稚園は大正二年四月一日に創めて開園いたしましたもので、主もに兩班（朝鮮にて文武の官吏となることを世襲せし家柄）の子弟をあづかつて保育して居ります。職員は私の他に日本婦人一人と朝鮮婦人一人とであります。

私は朝鮮に渡ります前には、常盤幼稚園に居りまして、相應に苦心致したつもりで居りましたが朝鮮に渡りましてからの苦心に較べれば物の數でも御座いません。

先づ通園幼兒の大部分を占めて居る兩班の家庭は非常に保守的でありまして、家庭といふ家庭は外部との交渉を殆んど絶して居るのであります、それ故幼稚園の存在なぞを家庭では知らないのであります、又知つてゐたにせよ、其必要を悟るだけに朝鮮の主婦達は啓發されて居ないので有ます。

それでも開園した年には二十五人の幼兒が集まりました。翌年は二月頃になつたらそろ〳〵入園願書が出て來ること、思つてゐましたが、一向その模樣がありません。三月になつても、なか〳〵集つて來ません。私は心配になりますので、朝鮮人の事務員に聞いてみますが、何うも何時まで待つても入園希望者が出て來さうもありません。

一體京城幼稚園はその頃官立の京城高等女學校の構内に設けられて居りまして、女學校の校長さんが名譽園長を兼ねてゐて下さいました。それで私は校長さんとも相談して、俥へ乘つて各家庭を訪問し、幼兒入園の勸誘をすることに致しました。

京城幼稚園は創立委員が百名以上あります、これが皆朝鮮人でありまして、この創立委員の子孫だけでも京城幼稚園は一ぱいになつて了ふ筈なのであります。しかし是等の創立委員は創立委員とはなられたものゝ自分達の幼兒を托することに就ては又別の意見を持つて居られるのであります。

とにかく、私は通譯を一人伴うて、兩班の內房を訪れて歩いたのであります。するともう頭から劍もホロゝの挨拶をする所があります、そんな必要はないと言つて戶を締めて了ふ所があります。まアいゝ所で「幼稚園とは何か」と訊かれるのであります、私はホッとして、通譯を通じて出來るだけ分り易く幼稚園の說明をして聞かせます、しかし大抵老人が不承知を唱へるから子供を入園させることだけはおことわりだと言はれます。又そんな幼い子に何が出來るものか、まだ七才ぢやないか、七才ばかりの子が何を覺えるものかと言つて一笑に附して了ふ所もあります。何處へ行つても、宛然(まるで)物貰ひか餘計なお世話燒きにでも來たやうに扱はれます。十軒歩いて、やつと一人位、それでは入園させて見やうといふ家庭がある、私は飛立つうれしさで入園願書に捺印して貰ひます、しかしこの承諾した家庭から四月になつて實際に幼兒が來ないのが澤山あります。この時分の私は實に賴りない、前途に光明のない、ものがなしい心持で、來る日來る日を迎へなければなりませんでした。而して內地にゐた頃には幼兒過剩のためにおことわりするのに困つた身が今は幼兒一人を得ることがお金の千圓も貰ふよりもうれしいとは何たる相違でせうとしみ〴〵なさけないやうな氣も致しました。

這麼風な頗る覺束ないスタートを切つた京城幼稚園も翌大正三年には五十六人許の幼兒を收容するやうになりました、而して何うやら前途の見込みも立つらしく見受けられました、而して同年の五月には一萬圓を投じて新築した現在の園舍が落

成することになりました。

朝鮮人側の希望としては、滿八才から小學校へ入學させるので、その時までに日本語を一通り用が足りるだけ覺えさせて貰ひたいと言ふのであります。これは朝鮮の敎育に熱心な家庭にとつては切實な實際問題でありまして、幼兒に一日も早く日本語を習はせ、日本語で勉强させたいと望んで居るのであります。それ故私の幼稚園では主智主義に偏するといふ批難は覺悟のまへで、一生懸命に國語を敎へ込んで居ります。

それから家庭との連絡を取るために、毎日保育を終つてから、幼兒の家庭を訪問いたします、而して母親達に「一度幼稚園へ來て見て下さい」と勸めてみますが、「まだ戸外へ出たことがないから」と言つて、却々オイソレと出て來ません。それでも、さんざ口を酸くして勸めると、それでは行つてみやうかと澁々幼稚園へも來るやうになりました。而して來てみれば可愛い子供が澤山ゐて、いろ〳〵な遊戯を樂しげにやつてゐるので、滅多に外出したことのない朝鮮婦人には實にめづらしく、おもしろいのであります、而して、先生が鞭で打たないのに、何うして子供があんなによく言ふことを聞くかと不思議がります。朝鮮の家庭では鞭で幼兒を育てゝ行くと言つても過言でない程に何處の家庭にも窓の上のところには必ず鞭が掛けてあります、而して一寸でも言ふことをきかないとピシャリと來ます。それで子供は馴れつこになつて了つてゐますから、鞭で打たれるまでは言ふことをきかないことに何時か心の中で決めて了ふ、兩親はそれ故鞭なしには子供を導くことは出來ないやうに考へて居るのであります、然るに幼稚園へ來てみると、大勢の子供が先生の言ふことをよくきいて、先生の自由になつてゐます。朝鮮の母親達は先づこれに感心して了ふのであります。私は何時も子供に「先生の眼を御覽なさい」と言つて居ります、惡いことをすれば睨んでやります。

善いことをすれば微笑してやります、これで十分です。

私の心は子供の眼を通して子供の心のなかに入つて行きます。それ故私に見られた子供は、私の眼だけを見ることによつて、私の心持を察することが出來るのであります。私は朝鮮の母親達に子供達は私の眼を見るとよくいふことをきくのですと話してやります。

現今では幼稚園と家庭との關係は非常にうまく行つて居ります、家庭からは寧ろうるさい位に幼稚園へ參觀に來てくれます。又子供の誕生日だ祖父さんの供養日だと言つて、家庭からも頻繁に招待を受けます、而して五度に一度位は出席します朝鮮特有の臭いお料理や何かを出して款待してくれます。

一體、朝鮮といふところは男女の差異の甚しい所で、男は相當に日本趣味なぞもあり、隨分ハイカラな、啓けた人もありますが、女は全然深窓の裡に在つて世間の樣子をチツとも知りません、朝鮮では婦人と老人とは極端に蒙昧であります。

兩班の幼兒なぞといふと太したもので、大抵附添が三人位附いて居ります、さうして何でも言ふなり次第に我儘を通させて居ります、頭を打たせろと言へばヘイといつて打たせると言つた調子ですから我儘勝手この上なし、自我の念が著しく發達してゐる代りに、他人といふものを全然認めません、誰でも自分の附添同樣に心得て居ります。それで幼兒同志が喧嘩をすると附添が又低能ですから止めやうはしないで、自分の主人たる幼兒に味方して他の幼兒を打たうとする、先づ斯ういつた調子ですから、却々大變です。

まア、それでもいろ〳〵面倒を見て、開園してから三年目の大正四年には九人の卒業者を出しました。その內男一人と女一人が日本人の小學校へ入學しましたが、二人とも非常に出來がよく、優等生をつゞけて居ります。その他の卒業生は國語

がまだ十分でなかつた爲めに朝鮮人ばかりを集めて敎へる方の普通小學校へ入學いたしました。

大正五年には十一人の卒業生があり、その內二人が普通小學校へ行き、他の九人は皆日本人の小學校へ入れました。

大正五年にはもう私は家庭を訪問して、幼兒の入園を勸誘して歩くことを止めました、大丈夫でせうかと怪ぶむ人もありましたが、私は全然行かぬことにいたました。さうしたら、案の定、四十人といふ定員だけの幼兒が入園を申込んで來ました。本年は九人の卒業生を出しました、內三人——男二人、女一人——が日本人の小學校へ入學し、他のものは普通小學校へ行きました。尙又本年の入園兒は五十名でありまして、侯爵家からも三人來て居ります。來年からは愈々入園兒に就ての心配は要らないと思ひます。これで朝鮮に於ける保育事業も何うやら、その緒に就いたと言ふものであります。（未完）

▲投稿歡迎▼

○保育に關する研究、實驗、統計等一切
○各地幼稚園の景況
○幼兒生活のスケッチ
○讀者諸氏の御近況、御感想、御抱負其他

以上各種の投稿を歡迎す

投稿規定

一、用紙隨意、成るべく二十二字詰に認められたきこと
二、誌上匿名を希望せらるゝ方も原稿には本名を附記せられたきこと
三、封筒の上には「婦人と子ども寄稿」と朱書せられたきこと
四、宛名は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛にせられたきこと
五、原稿の採否は當編輯部の意志に一任せられたきこと